



2022年雨期作の収穫が始まる!

成果 1: 栽培技術



< マリアナIでの収穫イベント >

1. Farmers Field School (FFS)雨期作の進捗

4月には、第5回目(自家採取種子品質管理)および第6回目(収穫および収穫後処理)のFFSワークショップを実施した。マリアナI灌漑スキームでは、計6回のワークショップを行い、計83名のFFS参加農家や11名の普及員が参加した。ブルト灌漑スキームでは、計5回のワークショップを行い、計52名のFFS参加農家や7名の普及員が参加した。

2. 雨期作の進捗

マリアナI灌漑スキームの約半数の農家の圃場は収穫期を迎えており、5月末までには全農家が収穫を終えると見込まれる。一方ブルト灌漑スキームでは、多くの圃場が出穂・開花期であり、少数の農家のみが収穫を終えている。

プロジェクトが推奨している総合的病害虫管理(IPM: Integrated Pest Management)の実践の効果と見られるが、これまでのような病害虫被害はあまり観察されていない。また、生育調査と収量調査を引き続き実施中。

3. 収穫イベント

収穫を祝い、かつ栽培技術の経験を共有する収穫イベントが、マリアナIとブルトの両サイトで行われた。ブルトでの最初の収穫イベントには、農業水産省(MAF)パウカウ県事務所長、ベマセ郡長も参加し、参加農家の機運が更に高められた。

成果 2: 灌漑管理



< 水門ゲート維持管理 >

1. ブルト灌漑スキームでの活動

水利用組合(WUA)組合長、副組合長、初期、会計から成る初回事務局定例会が4月5日に開催された。本会では、組合長のリーダーシップおよびタスクグループメンバーの支援の下、1、3月に行われた試行的総代会のフォローアップ、2、水配分問題、3、次回定例会の日程が話し合われた。また、マナット県およびパウカウ県の灌漑職員のサポートの下、4名のゲートキーパーが、上流から下流までの水門ゲートの機能確認およびグリーシング(油さし)を行った。

2. マリアナI灌漑スキームでの活動

灌漑管理マニュアルに基づき、ボボナロ県灌漑職員がゲートキーパーに対して、二次水路の8カ所での流量計測とその記録、および水門ゲートの開閉に関するOn the Job Training (OJT)を継続実施した。

また、WUA組合長とタスクグループメンバーにて、WUA総代会(代表者会議)開催のための準備会議を4月26日に行った。試行的総代会は、6月中旬に開催予定。

3. マリアナI灌漑スキームでの水利費徴収

支線水路長による水利費徴収が継続され、4月末日時点で約32%の徴収率となった。水利費徴収は、全農家が支払うまで継続努力される予定である。

成果 3: 物流と販売 (民間)

1. チャクブ農家組合への指導

チャクブ農家組合の資機材、粉保管量、メンバーシッププログラム用の化学肥料の配布量・残量、そして会計の確認を継続実施した。7台の脱穀機の活用方法を話し合うグループリーダー会議が4月21日に行われ、その使用方法が決定された。ディリの民間企業より精米50トンの受注を受け、精米機をフル稼働して精米にあたった。また、National Logistic Center (NLC)への精米販売については、引き続きその手順や手続きを確認中である。

成果 4: 買取と配布 (政府)



< NLC新コメ買取説明会 >

1. NLCによる買取説明会

マリアナI灌漑スキームで3月に実施した説明会に続き、その周辺地域であるカイラコ地域においても、NLCによる2022年の新たなコメ買取システムに関する説明会を実施した。NLCは、昨年のように籾ではなく、今年は精米(白米)にて、ティバール(リキサ県)、パウカウ、ナタルボラ(マナット県)の3倉庫のみで買い取ることを説明した。参加農家からは、ティバールまで道路状況が悪く、輸送手段も限られることから、以前のようにNLCの車両が精米を取りに来るよう要望が挙げられたが、NLCは農家に対して指定倉庫への納入を依頼した。

2. ブルト周辺での精米所調査

農家が周辺の精米所に籾を持ち込み、精米を依頼することが予測されることから、ブルト周辺(マナット、ラレイア、ベマセ、パウカウ)での精米所の基礎調査を行った。結果、この地域には25台の精米機があり、日当たり生産能力が合計で25~48トンであることを確認した。